



世間でインフルエンザが流行っていると聞いていますが、まだ臼井幼稚園には流行の兆しがありません。これも保護者の皆さまのご協力のおかげ、そして子ども達が毎日教室で行なっている“あいうべ体操”の効果、園庭遊びの後のお塩リクエスト（ミネラル補給）の効果が見られているのかな、と思います。このまま健康でいてくれたら、何より嬉しいことです。

ご報告です。ご存じの方も既に多いと思いますが、にじ組の担任渡辺由佳が体調不良により、今の予定では3月まで休職することになり、伊東恵理が担任を担っています。

発表会の劇遊びが始まったばかりで、にじ組は担任がお休みとなって、急遽劇を変更しました。本当にありがたいことに、子ども達はとてもしなやかに、その変化に対応してくれました。にじ組の劇は「一休さん」で、異例の速さで最後まで仕上がりました。。恐るべし伊東恵理ですね。

臼井幼稚園の発表会は、発表会に限らず、臼井幼稚園の保育は担任のペースで教えていくものではないので、最初はなかなか進まないことがあります。今年も例年に違わず、子ども達は1曲終わると、次は？次を演じたい！と先へ先へと進みたがるのですが、表現の深まりを私たちは求めます。場面、場面での演技の定着が欲しいからです。スペースの使い方は二の次で、姿勢、ポーズが各々違うことを求めます。立っている子がいたり、座っている子がいることによって広がりができ、表現に深みが出てくるのです。子ども達の劇と侮るなかれ、劇遊びは芸術です。

年中、年長ともなると、劇中でとても細かいことに気付いて演じている子がいます。水の中に入るのに、袖をまくったり、冷たさを身体で表現したり。お客様に背中を向けて幕の中へ入って行く時も、最後まで背中で演じ続けるように指導しています。素の、“そら組の〇〇くん”が見えないように、伝えています。幼児にそこまで求めるのか？と問われたら、子ども達が応えてくれ、それ以上のものを見せてくれることがこれまでの経験上わかっているので、求めます、と答えます。幼児だから、と大人が手を差し伸べ、助け過ぎると、つまらない子に育ってしまいます。幼稚園の教育は劇遊びでも、一貫して子どもから学ぶ目線で行なっています。

発表会について毎年書いていることを今年もそのまま記載します。是非改めてご一読頂ければ幸いです。

〈臼井幼稚園の発表会〉

1学期、2学期で行なってきた、クリエイティブ・ムーブメント、リズム・バリエーション、描画、壁面製作、造形、音楽、言葉遊び、日直の当番発表まで、すべての保育活動の集大成です。

発表会では、子ども達と担任の弾くピアノのコラボレーション、その相乗効果は感動的です。教員達のピアノの技術は必ずしも上手とは言い難い者もいますが、それぞれの技術に相応しいピアノ曲を選び、5月頃から準備をしています。

〈発表会の作品の作り方〉

① 子ども達と一緒に作る作品

台本もなく、動きや表現を指導者が決め、子ども達に教える活動ではありません。だから「作品作り」と言っています。練習にはなりません。作品のタイトルと構成、選曲は担任が行ないますが、ひとつひとつの動きや台詞などは、年中や年長の場合、ほぼ100%子ども達からの提案とアイデアを取り上げています。満3歳児、年少児は台詞自体が無い、或いはあっても掛け声程度ですが、表現は子ども達がそれぞれの思いを作品の中で表しています。だから、子ども達は自分で作り上げているという意識を持っています。

② 全員が主役

臼井幼稚園の発表会では、全員が主役です。この時期に「主役がやりたい」という声は聞こえないはずです。

③ 普段の保育が経験になり、その延長線上に発表会があります。

朝の当番発表では自分のことを友達の前で話します。こうした日々の積み重ねが発表会に繋がります。積み重ねとは、練習の繰り返しではありません。新たに生じた問題や、初めて出会う局面で、どうすべきかの能力、「応用力」「生きる力」を育てることです。

〈2ページへ続きます〉

#### ④ 年少での進め方

年少は、リズム・バリエーションを基本に作品作りをします。これはまだまだ表現能力が育っていないためと、年中、年長になって、より深い表現力を身に付けるための基礎能力になるためです。ステップは教師が作り、上体の表現は子ども達から引き出します。

年少の進め方は、子ども達の好きそうな、楽しそうな場面から始めます。子ども達の関心は必ずしも物語の最初ではありません。発表会の経験が無いから、子ども達が楽しめる場面から行なうことで、興味を高める効果が生まれます。また、年少でストーリーを追いつ過ぎると、子ども達の表現を十分に引き出せないからです。子ども達の好きな場面で、十分に表現を引き出すと、より意欲的に活動に参加してくれます。

園長 志田 裕美子

#### <担任から今月のメッセージ>

いよいよ最終学期がスタートしてしまいました。みんなと離れたくない…寂しい……など、切ない眩きも増えていますが、ここからは怒涛の活動ラッシュに、息つく間もないまま卒園式まで駆け抜けていきます。小学校へのワクワク感も共有しながら、1つでも多く楽しんだ思い出が増えていくよう、一緒に過ごせる時間を大切にしたいと思います。

劇作りでは、元々表現活動に苦手意識のある子が多いなあと感じてはいたのですが、毎日「やりた〜い」と言ってくれるし、いざ劇が始まればアイデアがたくさん出るだろう！と期待しておりました。しかし！！そこは控えめなほし組。他の表現はないかな？と問いかけると、途端にみんな下を向いたり固まったりしまったり……。セリフも意見が出ず、例えばこういうのは？と提案すると「それがいいね」と特にこだわりがなく、どうしていくべきか頭を抱えました……。が、悩んでいる時間はないので、場面ごとにどんな感情なのかを伝え、話し合いを重ねながら作っていきました。恥ずかしがり屋さんや失敗を恐れる子が多く、みんな誰かがやってくれたら次にやってみようかなあと消極的な誰か待ちになってしまったので、とりあえず全員でやってみよう！！作戦を取り入れていきました。全員でやろうと言われると「ええ〜」と言いながらも、とても盛り上がり、もっともっと〜と伝えると細かい違いを出すなど、考えて演じてくれる子が増えたので、めっちゃいい〜！その演技忘れないで〜！！と、その都度褒めまくり大作戦もして、少しでも自信をつけてもらえたらいいなあと少しずつ進めていきました。ホールにいくと園長先生が見てくれて、まだまだ素敵にできると思ったことがあったらメモに書いて教えてくれるんだけど、これ以上ない！と感動したらメモが

なくなるんだよと伝えると、「今日はなんて書いてある？」「何枚もらったの？」と関心を持って取り組んでくれるようになりました。最初の頃から言われ続けていることは、こっそりの場面でついつい「ごん」が足音を立ててしまうことです。途中までは覚えていても夢中になると忘れてしまうようで何度も繰り返しているうちに「足音ー」と園長の雄叫びも炸裂しております。

参観はさすがに雄叫びはなかったかな？と参観前に書いているので、ドキドキワクワクな心境です。マイペースさんたちではありますが、難しい内容でも諦めずに次へ進んでいくことを楽しみにしてくれています。ホールから戻ると、黒板の歌詞カードを見てみんなで挿入歌やエンディングを口ずさんでくれて、やる気は最高潮です。本番まで体調を崩さず、エンディングを迎える時は全員でできた〜！！と達成感を味わえたら幸せだなあと願っています。これからインフルエンザなどたくさん流行ると思いますので、あいうべ体操をしたり、水分補給をこまめにしたり、できる対策はみんなで忘れずにしていきたいです。

今月から友達の素敵なところを見つける大会を開催しています。本当は当番発表で行ないたいのですが、まだ3人くらいからしか発表してもらえず、みんなで帰りに考えています。

今日は何か見つけた？何かある？と聞くと初回は「ない！」と満面の笑みで答えられたのであまりの衝撃に、えー！？ないのー？？とズッコケてしまいました。そんな中、

「友達じゃなくて自分ならあるんだけどな……野菜を残さず食べられた」と遠慮気味に呟く子がいて、可愛い〜とキュンキュンしてしまいました。意外と人を褒めることが難しく、まずは自分がかっこよかったことでも良いね〜と伝えました。

友達の嫌なところばかりを見つけて、こんな子と決めつけてしまうこともあるので、良いところを見つけた方が新しい発見もできるし、相手も嬉しいよねと話し合っていました。

自分で考えて発表することを積極的に取り組んでもらえるようフォローしていきたいと思います。

山口 朱美

